

平成 28 年 10 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

10月の業種別景況の前月比DI値は、14業種の中で2業種が好転、前月同等が8業種、悪化が4業種で、全体の景況感も若干の悪化となっている。

繊維工業・建設業・運輸業の人員・人材不足も続いており、業務に影響が出ているとの報告である。

受注や売上が増加しているとの報告も多くみられるが、受注や売上が減少しているとの報告の方が若干多く、山口県の中小企業の景況感は、未だ回復感が弱い状況である。

山口県の主要指標 DI 値（平成 28 年 10 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)

前年同月比は、好転： 6.3% 悪化：32.5% DI 値：▲26.2% ポイント

売上高 (< 増加 > - < 減少 > = < DI 値 >)

前年同月比は、増加： 10.0% 減少：37.5% DI 値：▲27.5% ポイント









収益状況 (< 好転 > - < 悪化 > = < DI 値 >)


前年同月比は、好転： 6.3% 悪化：36.3% DI 値：▲30.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 28 年 10 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	▲25.0	▲33.3	▲100.0	▲66.7	11.1	50.0	▲30.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
▲60.0	▲33.3	▲75.0	▲18.2	0.0	0.0	0.0	▲23.4
							

全体
▲26.2


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	最低賃金の上昇により、全てのパート賃金を20円アップ等で負担感が増した。時給については洋菓子販売、洋菓子製造、和菓子販売、和菓子製造の順で賃金が安くなり、和菓子製造では最低賃金を採用している割合が多い。昨年はねんりんピックがあったが、今年は大きなイベントがないため前年同月比で土産菓子等の売上高が減少。山口市で組合員1店、員外1店が閉店。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	雇用状況に多少の改善が見られる。	パン・菓子製造業 下関市
	売上高は対前年同月比▲20%の大幅ダウン。大河ドラマ効果の反動による減少が依然と続いている。10月もテレビ朝日系「食彩の王国」や「メレンゲの気持ち」など大型全国放送番組で紹介されたものの、大河ドラマ効果には勝てない。空調機の入替工事や自動ドアの補修更新など設備経年劣化に伴う出費が多いため、資金状況もやや悪化の傾向。地元・県内マーケットが人口減少により縮小しているため、通販市場に本格的に取り組む予定である。中央会の支援で11/4、ローカル通販のエキスパート松崎了三氏（馬路村の柚子プロデューサー）を招聘し、講演会・勉強会を実施した。	水産食料品製造業 萩市
	商品の動きが鈍い。全体的に景気の悪い雰囲気が広がっているようだ。	水産食料品製造業 下関市
	長雨で収穫作業の遅れが懸念されている。地球温暖化に伴う長雨や大型台風の影響で野菜価格が高騰するなど、国民生活への影響が更に高まってきている。大雨などの自然災害へ対応できるようなインフラの整備を進めることが、特に重要になってきている。	精穀・製粉業
	繊維工業	主力販売取引先の12月からの新製品販売と1月キャンペーンの備蓄生産が増加し来年2月末までの受注がある。外国人実習生は、現在、中国人20名、ベトナム人37名の計57名である。求人については相変わらず最悪の状態である。新たに民間広告情報誌で求人活動を開始し、新聞折り込み広告についても検討中である。
	店頭で活気の無い状態が続いている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	あまり売れていない模様で仕事が少ない。	外衣・シャツ製造業 下関市

	業界全体で不安定な受注状況が続いており、例年になく厳しい状況である。長期的見通しとしては、1、2月の受注は前年同月と比べ回復すると見ている。	外衣・シャツ製造業 萩市
木材・木製品	引き続き公共工事関連の仕事をしており、売上高も若干上昇した。	製材業・木製品製造業
印刷	印刷の全国大会が福島県郡山で、10月21～22日に開催され、この中で、業界の新たな指針「全印工連2025計画 新しい印刷産業へのリ・デザイン」が提示された。	印刷 下関市
	仕事の絶対量が減少。同業者からも愚痴しか聞こえてこない。	印刷 山口市
窯業・土石製品	10月の出荷量は、 (平成27年10月) 骨材 98%、路盤材 86%、再生材 66% ↓ (平成28年10月) 骨材 65%、路盤材 94%、再生材 182% 出荷量が減少する中で値上げが必要な時期であるが、同業者の値下げ競争が始まっている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比105%、前年同月比92%。4～9月までの出荷量は、前年同期89%（前年度は98%）。現時点、セメント・骨材等の資材調達では、特に問題は生じておらず、生コン価格も安定している。	生コンクリート製造業
	最近では、見積書の依頼は多いが仕事に結びつく事が少なく、こちらが提出した図面や見積書が他の業者に渡り、そこが図面の転用をして自社のPRに使用している例もある。国産材使用と謳っていても本体のみで基礎部分には外国産を使用している業者もいて、そうすると全てを国産材で作っている業者との価格が大幅に違ってくる。我々が取り扱う商品は一生に一度作るか作らないかという物で、メンテナンスを頻繁に必要とする物でもない為、ご縁があったお客様に誠実に対応し、また他のお客様を紹介して頂けるよう努力することが必要と考える。	石工品製造業
	萩市内においては、着物ウィーク in 萩プレミアム10月1日～23日、竹灯籠物語プレミアム10月7日～9日、15日～16日、22日～23日、秋の萩焼まつり10月7日～10日など様々なイベントが開催され、秋の観光シーズン・修学旅行などもあって多くの観光客で賑わった。売上げも前年同月と比べ同レベルを維持している。組合が商品を提供している浅草のアンテナショップの売上は、先月と比較してほぼ横ばいといったところ。先月同様テナントビルのお客の減少が大きく影響しているのと、オ	陶磁器・同関連 製品製造業

	<p>オープンして10ヶ月経って商品を見慣れてきたのも理由ではないかと考えられる。外国人や富裕層へ高額商品(抹茶茶碗やぐい呑)を販売するケースも増えてきていることから、品揃えも検討していきたい。関東方面の百貨店や陶器店からの受注に関しても昨年と比較して動きが鈍く、横ばいあるいは減少傾向にある。</p>	
一般機器	<p>10月の景況は9月と同じ状況で、全体としては動きが鈍い。組合員内で景気の温度差があるが、金型関係は順調である。海外工事関係は、依然として受注が無い。</p>	一般機械器具製造業 防府市
	<p>機械検査、機械加工関係の下請け企業の受注状況は安定している。惣菜、自動車、造船関係は好調で残業も多く、36協定の遵守を指導している。但し自動車関係は年末から厳しいとの情報もある。食品加工、食肉加工業、溶接関係、惣菜等は、引き続き人材の確保が困難で、外国人技能実習生増員や新規の相談あり。特に惣菜関係の人手不足は深刻である。国の制度改正が継続審議となり、介護施設からの問い合わせが増えている。最低賃金のアップは実習生には朗報で、企業によっては更なる上乘せをする企業も出てきている。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
	<p>前月通りで推移。</p>	
	<p>金型の生産設備操業度は、8、9月と受注が減ったのが要因でやや低下した。今後の受注としては、10月末の確定と、11月上旬の受注が確実となり年末から年明け3月頃までの生産量が確保でき、設備操業度も上がりそうな見込み。但し、人員が今年になり3名減員となり作業者に負荷が掛かりそうである。成形製品の生産設備稼働率は上昇傾向で、11月も10月と同程度の受注を予測しているが、年末、年始以降は先が読みにくい状況。</p>	特殊産業用機械製造業
輸送機器	<p>鉄道車両部門は長期生産計画に基づき順調に生産を伸ばしているが、コスト低減の要請は厳しく経営面での明るさに欠ける。精密加工部門は継続的に好調であった前年と同レベルで推移している。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>9月と同様荷動きが悪く、在庫も前月比6.7%の減少となった。これからは、お正月おせち用の在庫が期待される。</p>	乾物卸売業
	<p>魚の入荷が少なく売れ行きも良くない。未だに夏の海水温であることが大きな原因である。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>景気については、まだまだ先行き不透明であると組合員から回答がある。</p>	各種商品卸売業

	<p>季節の変わり目がはっきりしないまま、冬商品の動きが出てきた。</p> <p>平成27年4月に原乳取引価格の改定があり業界全体で値上げに取り組み、収益性が改善し経営が安定するよう思えたが、絶対的な人口減少と高齢化等を背景とした需要の減退により、結果として売上の減少となっている。新たな経営改善の手法が求められているところである。</p>	
小売業	<p>今月はリニューアル店、新店舗オープン、大規模店舗の大きな催しがあったインスタ店等は売上が少し上がり、路面店は厳しい状況で、何かメインとなる集客案が欲しいところである。各化粧品メーカーも人員や施策の予算が削られている模様で、それがお店の売上に影響しているように思う。</p>	化粧品小売業
	<p>組合員はジリ貧状態で、よくなる兆しは見えず、売上増を諦めている事業所もある。事業主も顧客も高齢化し現状維持が精一杯の状態。シール会役員の病氣入院が増加し運営自体も困難な状況。地区の中小企業者は、町内でイベントが開催され売上が微増の傾向である。秋冬物の売上は10月下旬より多少動きがあった。由宇町中央フード跡地にウォンツの出店が決定し、来年2月に開業の予定だが、町内の薬局やその他小売店にも影響がある。しかし消費者は歓迎している。</p>	各種商品小売業 岩国市
	<p>郊外大規模店の開店以来、中心市街地への来街者が減少していると思われる。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>中心商店街への人出は変わらず、厳しい状態。暖かい天候のため秋・冬物衣料の動きが悪い。11月にはプレミアム商品券の発売が開始されるため、クレジットの取扱が減少すると思われる。</p>	各種商品小売業 山口市
	<p>10月は気温が高めに推移したため衣料品関係の売上が減少し、先月同様、客数、売上とも前年を下回る売上の状況。</p>	各種商品小売業 長門市
商店街	<p>秋物衣料品の売上が低調で、スーパー、百貨店、家電、ホームセンターの何れも前年を割っている。コンビニとドラッグストアのみが5～7%のUPとなっている。商店街も根本的な集客策を打たないと活性化しない。それぞれの個店の活性化以外に策はないかもしれない。</p>	山口市
	<p>10月にはイベントがあり来場者の売上を期待していたが、来客者も少なく思うようにならなかった。各店この状態の打開策を考えている模様。</p>	萩市

サービス業	<p>年金月であるが来店客が少ない。前年に比べ来店サイクルが長くなり利用回数が少なくなっている。店販も少ない。消費者は、野菜の高騰、災害の影響、消費税等出費が多く、将来不安もあり、経済へ回るお金が少なくなっているような気がする。岩国ではカープの影響もあり、安売りのお店・優勝記念商品等賑わいがある。</p>	美容業
	<p>売上不振。</p>	理容業
	<p>県内の登録車及び軽自動車の車検台数は、過去のリーマンショックや東日本大震災時における新車販売減少の影響もあり昨年末から低迷していたが、8月以降は回復傾向である。明るい兆しが見え今後の回復に期待している。</p>	自動車整備業
	<p>人手不足が続いている。</p>	スポーツ・健康教授業
	<p>昨年10/16～20に「ねんりんピック」があり、湯田温泉に延8,000名の宿泊があったが今年は大きな大会も無く、宿泊者数及び売上高ともに対前年同月比で90%となった。</p>	旅館業 山口市
	<p>昨年はねんりんピックの開催や昨年8月の台風被害の調査により宿泊稼働率が向上したものの、今年はそのような状況もないので販売単価が下がり、収益も悪化している。</p>	旅館業 下関市
	<p>景気の踊り場の状況である。客質が向上したが客足が伸びない状況が続いており、食材の仕入価格が大幅に上昇したが販売価格に転嫁できないため収益が悪化する典型的な状況。貧富の差、2極化は地方食文化を歪曲化し始めている。大衆、零細店では地域ブランド食材が扱えずやむなく他地域産の食材で調理せざるを得ず、和食料理店の地産地消が難しくなっている。このあおりで、老舗店舗の閉店が引き続き目立つ。代わりに新規の若手経営者が増えればいいのだが、冬場を迎え日本料理店に期待したいところだが期待薄のようだ。10月24日、第4回飲酒運転根絶総決起集会を開催し飲酒運転の根絶を呼びかけたが飲酒運転事故が続き景気回復の足を引っ張られ、残念な限りである。</p>	飲食業
	<p>本来なら夏物衣類と冬物衣類が交錯する時期だが、10月にはありえない悪天候と気温の不順で、思ったほど需要が伸びない。他の地域では、品物が一気に動いたとの報告もあった。売上高は10月後半に向け徐々に回復傾向にあるが、10月全体としては例年に比べ、減少の方向となっている。</p>	普通洗濯業

建設業	9月の山口支部中電への工事申請は130件。太陽光発電への申請26件、オール電化申請66件、LED街路灯への切替・新設申請16件であった。	電気工事業
	春から夏にかけての工事発注が少ない状態から脱しつつあるが、新規工事契約の受注単価が下がり始めた。	左官業
	組合員各社とも十分な受注工事を持ち2月末の納期に向け順調に工事を行っているが、相変わらず職人・ガードマンともに人員不足となっており取合いである。例年通りで行けば次期発注は来年の6月頃となる見込み。	管工事業
	木造家屋の建築着工件数が若干増加しており各店とも忙しい状況。群馬県高崎市では、「瓦屋根を軽量な屋根材に葺き替え」補助金制度が施行されたこと。地震災害が頻繁に発生し瓦屋根の被害が大きく報道されているため、一般消費者の監視が高く、瓦業界としては大きな危機感を抱いている。12月にこの問題について組合員向けのセミナーを開催し、建築基準法・耐震診断方法等を学ぶ。	屋根工事業
	年度末の工事が動きだし、来年2月までは、好調ではないかと思われる。	内装工事業
	依然として工事量が少ないとの事。公共工事が民間工事を牽引する力が無い。柳井駅前に高層マンションを建造するとの事であるが、柳井市内の不動産業者の発注で受注は広島県の全国ネットの会社の模様。柳井地域に波及効果は少ない。	土木工事業 柳井市
	公共工事の受注は0円であった。	土木工事業 周南市
	10月の受注高は対前年同月比27%。今年度の累計は対前年比97%。	土木工事業 萩市
運輸業	運転者不足で長距離運送に多々支障があった。稼働、給料、定時間内勤務にはほど遠い職種なため、若い人達の思考には合致しないようである。中距離輸送はまずまずの成績で前年同月比プラスマイナスゼロ。燃料費は前月と同額。軽油引取税を数パーセントでも引下げがあると経営にプラスとなるとの声がある。	一般貨物自動車運送業 下松市
	依然として、前年度割れの輸送実績が続いている。自動車及びタイヤ等の輸出関連輸送は総じて良くない。特に建機用タイヤについては世界の需要減退に伴い昨年下半年より減産傾向にある。燃料単価は低位にあるがジワジワと上がっている。	一般貨物自動車運送業 防府市

	<p>運送としては岡山・関西・中京方面行きの荷動きが多くなってきているが、帰り荷の荷物情報が少ない状況が続いている。特に化学製品の輸送が増えてきており、工場内における工程間の輸送等の案件も発生している。倉庫業に関しても順調に受注出来ている模様である。燃料の大幅な値上げが予想されており、懸念材料となっている。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>今月は個人タクシー免許の継続のために必ず受講しなければならない研修会があり、県内の事業者が集まり受講した。他タクシーを利用する大規模な催し等はなかった。</p>	一般旅客自動車運送業 下関市
	<p>タクシーチケットの取扱金額は、前年比▲1.4%(平成28年9月1日～平成28年10月20日分)。9月1日～30日分は▲2.8%、10月1～20日分は+1.1%。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域だが、9月分については、周南▲2.1%、下松+3.7%、光+8.2%、防府市地区が▲2.5%で、組合員の全域で▲0.9%、地区外(員外)▲30.0%で合計▲2.8%。天候や曜日の関係(祭日の多い月は減少が大きい傾向がある)による増減はあるが、9月分合計は▲2.8%の減少。昨年は、ねんりんピックがあったが今年は大きな行事も無く、10月分後半は厳しい状況。個人消費が基本的に回復していないと思われる。主要燃料であるLPGについては、CP(通告価格)と為替に連動して変動するが、ブタン、プロパンのCPが上がり(前月305\$/トンが今月345\$/トン)、為替が円安になったので、前月より+4%となったが、前年10月分に比べると▲8%である。ガソリンほどではないが、冬場の需要期を向かえ、少し上昇気味ではある。車両代や整備費用が上昇しているなか、前年に比べて燃料費が下がっているのは、タクシー会社にとって大いに助かっている模様である。9月分の取り扱い減少後、10月分が回復するかどうか年末の繁忙期を控え心配であるが、景気回復の実感は弱く、まだまだ厳しい状況が続いているように思われる。</p>	一般旅客自動車運送業 周南市
	<p>今月も取扱高の伸びが無い。</p>	港湾運送業
その他非製造業	<p>取引は安定して継続している。10月の売上はほぼ前月並み。</p>	介護事業